

ヒルフェ通信(5月号)

❀ そっと寄り添いやさしくサポート ❀

「公益社団法人成年後見支援センターヒルフェ」は高齢者、精神障がい者、知的障がい者等の権利の擁護及び福祉の増進に寄与することを目的として、東京都行政書士会が設立した法人です。



◆令和3年度地域権利擁護事業関係機関連絡会議に参加

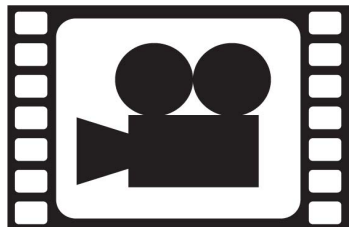
令和4年3月23日(水)午後2時～4時、東京都社会福祉協議会主催による地域権利擁護事業関係機関連絡会議が開催され、山崎理事長と佐々木相談役が出席しました。

今回はコロナ禍のまん延防止規制の関係上、「zoom」を使用してのオンライン開催となりました。テーマは「あなたにとっての依存とはどういう意味があったのか?」としており、地域権利擁護事業(全国的な名称は、日常生活自立支援事業)や成年後見制度を利用している方の中には、依存症を抱えて地域で生活している方や、そのような方と同じ世帯で暮らしている方がいます。社会全体はもとより福祉関係者にもあまり理解が浸透していない「依存」ということについて、依存経験をもつご本人の熱心なお話から、「依存」に関する理解を深める機会を得ることができました。また、後見人として、家族も何かできることはないかと悩み、苦しんできた家族が抱える問題について知る良い機会となりました。

ご本人のお話の中で、「良い医師にあたるのはギャンブルみたいなものだ!」と強く話されておりました。ヒルフェとして、質の高い良い後見人にあたるのも、ギャンブルみたいなものだ!などと言われられないような質の高い後見人の養成をしていかなければならないと、強く肝に銘じた言葉でした。また、ヒルフェの研修に取り入れても良いと思った次第です。



◆映画「ぼけますから、よろしくお願いします。」続編が全国順次公開中



令和4年3月23日(水)、ヒルフェ主催で、初めて一般会員の方向けにオンライン研修として映画「ぼけますから、よろしくお願いします。」を配信いたしました。平日の午後という業務多忙な時間にもかかわらず、140名近くの方に視聴いただきました。ありがとうございました。

なお、この映画の続編として「ぼけますから、よろしくお願いします。～おかえりお母さん～」が3月25日(金)より、全国で順次公開されています。

母の認知症が進む中、変わらぬ愛情を注ぎ介護する98歳の父。しかし、ある日母は脳梗塞で倒れ、入院生活を余儀なくされる。毎日、1時間をかけて病院へ見舞い、いつか母が帰ってくる日を信じ、父は筋トレを始める。認知症、老々介護といった高齢社会が抱える問題を突きつけられるが、一方で支え合う結婚60年の物語に心を打たれる。

前回にご覧になられた方も、新たに興味のある方も是非ご覧下さい。

◆ヒルフェ IT関係のお問い合わせにつきまして

これまでIT関係のお問い合わせ窓口としておりましたit@hilfe.jpのアドレスが、大量の迷惑メールが届き、運営に支障をきたすため、アドレスを削除いたしました。

IT関係のお問い合わせについては、kouhou@hilfe.jp 宛にお送りくださいますようお願いいたします。



◆令和4年度 定時総会のお知らせ

令和4年度の定時総会は、6月20日(月)午後2時からを予定しています。詳細は改めてご連絡します。